

和歌山だよいい

平成21年
(2009) 3月号



根来寺（岩出市）
根来寺大塔（多宝塔）国宝（建物左）

CONTENTS

1. 知事メッセージ…………… P1
2. 和歌山県政トピックス…P2～P12
3. ふるさと歳時記…………… P13



菜の花

「勲章」

お正月にテレビで箱根駅伝を見ておりましたら、昔の名ランナー、名監督が出てきて「自分にとって箱根駅伝は勲章だ」というような事をおっしゃっていました。いい言葉です。

県民の皆さんの中には、功が認められて天皇陛下から本物の勲章をもらえる人もいます。一部の伝達は私から行うものですから、私も皆さんの素晴らしい人生に感動しながら、心をこめて表彰状や勲章をさし上げています。また、県の各種表彰の式も年に何回かありますが、受賞された方々の事績に接しますと心打たれるものがあります。

ただ、このように賞をお受けになる方々のみならず、お年を召した県民の皆さんには、長い来し方を振り返った時、それぞれにこれこそが私自身の人生の勲章だと思いいなるようなものがあると思います。山奥の畑を、きつい傾斜地のみかん畑をずっと守ってこられたお年寄りには、それらの畑やみかんの果実こそが素晴らしい勲章だと思います。大勢の教え子を世に送り出された先生にとっては、今は立派に成人した教え子の子供の頃の笑顔の思い出が勲章でしょう。苦勞に苦勞を重ねて会社を大きくしてきた方、その道一筋に会社に勤められた人、皆さん勲章がおります。また、多くの方々にとって手塩にかけて育てられたお子さんが立派に社会で活躍しておられる姿こそが素晴らしい勲章でありましょう。そういう多くの県民の方々のように、私も県民の幸せのため仕事に打ち込んで、精一杯がんばって、そして時が過ぎていつか昔を振り返る時、自分にとってあの日々が勲章だったなあと思えるようになりたいものだと思います。



「和歌山県農業士・グリーンワーカー・漁業士認定式」で挨拶する仁坂知事。

農業、林業、漁業において地域のリーダーとして活躍を期待する方々を認定する制度です。

* 最近の県政の動きや県内の話題などをピックアップしてお届けします。

●平成21年度当初予算・新政策を発表

・平成21年度は、昨年3月に策定した和歌山県を元気にするための長期総合計画を強力に推進する年です。このため、県を挙げて1年間、新政策の検討を行い、数多くの新しい施策を創出してきました。一方で、本県の財政をパンクさせないように昨年度策定した新行財政改革推進プランを守っていく必要もあります。さらに、この大不況の中で、県内経済を守るための財政出動も必要となりました。

・平成21年度予算は、これら全ての要請に応えるものとして、「緊急対策」、「底力を蓄える施策」、「安全安心施策」の3要素を重点として編成するとともに、新行財政改革推進プランの路線も堅持することができました。

【緊急対策】

・世界的な景気後退の中で県内経済を支えていくことが現下の急務ですので、平成20年度内から緊急対策に取り組んでいきます。

・まず、不況で苦しむ中小企業を金融面で支えるため、県内企業の資金繰り対策を拡充しました。また、道路や橋りょうの整備、県立学校の改修など、県民生活に密接な社会資本の整備についても、総額を増やすとともに、前倒してどんどん実施していきます。

・雇用面においては、県内外の優秀な人材を本県産業に積極的に呼び込むため、「和歌山で働きませんか!」「和歌山で農業しませんか!」「和歌山で福祉・医療の仕事しませんか!」プロジェクトに既に着手しています。

【底力を蓄える施策】

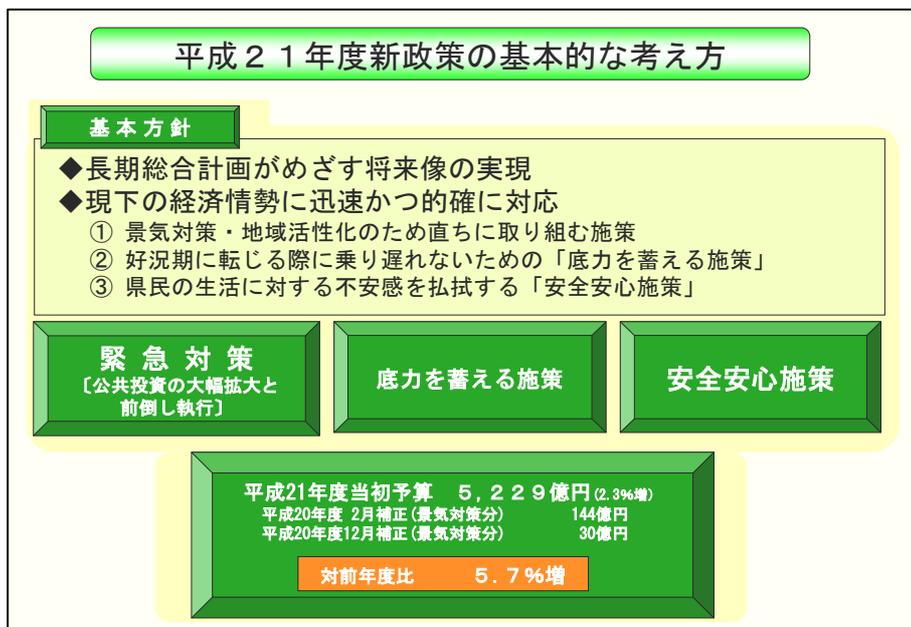
・我が国の経済が現在の不況期を脱し次の好況期に向かう時、いかにして本県がその流れに乗り経済成長を実現できるかが「元気な和歌山の創造」のカギであると考えています。

・このため、わがまち元気プロジェクト、新農林水産業戦略プロジェクト、新リーディング産業の創出、環境先進県をめざした自然エネルギーの利用拡大、成長を支える人づくり・青少年対策など次の飛躍に向けた「底力を蓄える施策」を重点的に実施していきます。

【安全安心施策】

・不況期には不安感が一層厳しく意識されますので、安全安心施策を手厚くすることとし、医療の確保に加え高齢者対策に特に力を入れることとしました。

・具体的には、地域で高齢者を見守る体制づくりと、元気な高齢者が地域で困っている高齢者を支える地域の助け合いを進めるとともに、ICTを利用したネットスーパーの活用、地域の公共交通確保などに取り組みます。さらに地震が来た時に孤立するおそれのある全集落に無線通信設備を配備することとしました。



(長期総合計画の6つの柱ごとに、代表的な施策や新規事業を紹介します。)

1. 未来を拓くひたむきな人間力を育む和歌山

- ④ 県内企業経営者などによる大学や和高専での実践的な講義
- ④ リレー式次世代健全育成

地域の青少年自らがリーダーとなり、次世代を担うリーダーを養成する仕組みの構築
 ・国体開催準備となる関連施設（県立総合体育館・県立室内プールなど）の整備

2. 生涯現役で誰もが活躍できる和歌山

- ④ 高齢者による地域あんしん・見守り等構築

「民生協力員」制度の創設など、元気な高齢者が地域で困っている高齢者を支える仕組みを構築

- ④ シニアのICT活用推進

高齢者の生活の利便性向上のため、ネットスーパーの仕組みを活用できるような環境を整備

- ④ 人口減少地域等交通活性化・再生支援

地域のニーズに応じたコミュニティバスの導入を行う市町村などを支援

3. 国際競争力のあるたくましい産業を育む和歌山

- ④ わかやま農商工連携ファンド

農林漁業者と中小企業者が連携して行う事業活動に対して助成

- ④ 新農林水産業戦略プロジェクト推進

地域や品目ごとの課題に対応した生産・加工・流通・販売の総合的な取組を推進

4. 癒しと感動を与える誇れる郷土和歌山

- ④ 世界遺産登録5周年事業の展開

世界遺産シンポジウム（東京・大阪・和歌山・本宮）、古道ウォークイベント、記念展・特別展

- ④ わがまち元気プロジェクト

地域資源を核とした「1市町村1産業」の創出に取り組む市町村を支援

- ④ 和歌山県庁舎・図書館などに太陽光発電設備を導入（3年間で8ヶ所予定）

- ④ 地域密着型木質バイオマス利用・普及モデル

全国初の木質パウダー燃料を利用する木質バイオマスの地域循環システムの構築支援

5. 県民の命と暮らしを守る安全安心和歌山

- ・ 防災指令拠点となる県有施設等の耐震化や橋りょうの耐震化

県有施設の耐震化（平成26年度末までに完了）

緊急輸送道路の橋りょうの耐震化（平成25年度末までに完了）

- ④ 孤立集落通信確保

孤立集落の被災状況をいち早く把握し応急対策を迅速に進めるため、通信機器の導入を支援

- ④ 安全・安心な食品の確保対策

流通・販売事業者が取り組むべき「衛生管理マニュアル」を作成し、導入を促進

6. にぎわいと交流を支える公共インフラを整備する和歌山

- ・ 高速道路ネットワークの整備

近畿自動車道紀勢線（すさみICまで平成27年完成目標）

京奈和自動車道（平成27年内の県内全線完成目標）

- ・ 情報基盤3本柱の整備

ブロードバンド基盤整備、携帯電話不感地域解消、地上デジタル放送難視対策を推進

- ④ QRコードで和歌山まるごと売り出し

農産物の生産地情報と観光情報、わいわい市場との連携により産品販売を拡大

●アジア最大級の食品展示会「FOODEX JAPAN2009」に大規模出展

～優良県産品「プレミア和歌山」をトップセールス～

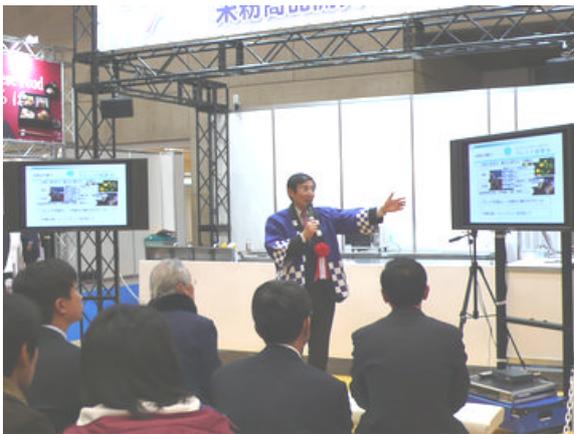
日 時：平成21年3月3日（火）～6日（金）10：00～17：00

場 所：幕張メッセ（千葉県千葉市美浜区中瀬2-1）

・アジア太平洋地域最大級の食品・飲料の総合展示会である「FOODEX JAPAN 2009」が、千葉市の幕張メッセで開催されました。本県の出展は昨年引き続き2回目で、梅干・野菜果実加工品・水産品・酒類などの31の県内生産者ととともに、全国自治体では最大のブースで出展しました。



・3月3日のオープニング・セレモニーでは、ワレサ・ポーランド元大統領他の来賓、出展各国大臣・大使、主催者とともに、国内出展者を代表して仁坂知事がテープカットに参加、華やかなオープニングを飾りました。



・セレモニーの後、12時15分からは、会場内キッチンステージにて、仁坂知事が優良県産品「プレミア和歌山」をトップセールス、「プレミア和歌山を和歌山のミシュランに！」とアピールした。また、サプライズゲストとして俳優の辰巳琢郎さんが応援に駆けつけてくださり、プレミア和歌山のPRを行っていただきました。



・会場には4日間で7万8千人余りの来場者が訪れ、県ブース内では、出展者が新製品やこだわりの商品を熱心に説明し、商談コーナーで真剣な商談を行うなど、終始熱気に包まれていました。また、別会場で中国など海外のバイヤーとの商談も行われるなど、本県産品の世界への飛躍を予感させる4日間でした。

●平成21年東海和歌山県人会総会・懇親会開催

・2月10日、105周年を迎える「平成21年 東海和歌山県人会の総会と懇親会」が仁坂県知事や稲垣愛知県副知事ら多くの来賓、会員約160名の出席のもと、名古屋市内のホテルで盛大に開催されました。

・山口春三会長の開会挨拶に続き、来賓として出席した仁坂知事が祝辞の中で、100年に一度の経済危機の中でも「がんばっているふるさと和歌山」の話題を熱く語りました。

・また、新宮市学芸員山本さんによる「野比丘尼の絵解き」実演が行われ、会場全体を幽玄の世界へと導きました。

・その後の懇談では、県人会のメンバーがふるさとの話題等で交流を深めるとともに、豪華景品が当たる恒例の抽選会など大いに盛り上がりました。



(挨拶する山口会長)

●「新行財政改革推進プランの実施方針について」を公表

・本県では、昨年3月に「新行財政改革推進プラン」を策定し、そして9月、県有施設、外郭団体、補助金の見直しを中心とした「新行財政改革推進プランの実施について」（行財政改革推進本部事務局案）を発表して取り組みを進めてきました。

・この事務局案に、県議会、市町村、県民の皆様から主として制度、施設の存続を求める多くのご意見をいただき、それらも踏まえながら検討した結果、本年2月、「新行財政改革推進プランの実施方針について」を取りまとめて公表しました。

・「実施方針」の主なものとして、県有施設では、職員会館、経済センター、軽費老人ホーム無憂園、南紀スポーツセンターの海洋スポーツ施設を廃止とし、県公館とわかやま館については、行政目的を廃止し、民間売却や貸付を検討していくこととしています。

・外郭団体では、道路公社と（社）和歌山県経済センターを平成22年度に廃止することとしています。

・補助金では、日本一うめ産地支援事業補助金について、終期（平成23年度）を設定、浄化槽設置整備事業費補助金は、新築分を住宅対策と位置づけ3年間継続（改築分は従来通り）、重度心身障害者等への県単独医療費助成は、制度の見直しを引き続き検討としています。

・この「実施方針」に基づく見直しにより、平成21年度においては、県有施設で1.2億円、外郭団体で0.3億円、補助金で7.1億円、合計8.6億円の節減が行われることとなります。

・なお、詳しい資料は、下記のホームページでご覧いただけます。

ホームページアドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/011700/jissihousin.html>

※和歌山県ホームページ（和歌山県情報館）

●「近代化産業遺産群 続33」に認定された本州化学工業(株)が知事を訪問

・「近代化産業遺産」とは我が国産業の近代化を支えた建造物・機械等がそれぞれの地域で観光をはじめとする地域活性化の「種」となるように経済産業省が認定するものです。

・和歌山県内では、本州化学(株)をはじめ、「友ヶ島灯台」、「潮岬灯台」、高野山参詣関連遺産として南海電気鉄道(株)高野線の駅や橋梁、そして南海本線の紀ノ川橋梁やトンネルが認定され、2月23日、大阪市中央公会堂にて認定証の授与式が行われました。

・2月25日、本州化学工業(株)の和歌山工場長が知事を訪問しました。

・近代化産業遺産群に認定された本州化学の「ベンゼン精製装置」は、由良浅次郎氏(本州化学工業(株)創業者、和歌山市出身)が研究を重ね独自で考案設計したもので、この装置により日本で初めてアニリンの精製を開始し、国内染色産業は危機を脱することとなりました。

・その後、由良氏は多数の染料原料等を製造し、我が国の化学産業発展の先駆けとなり、和歌山地区の染色工業の発展をもたらしました。



【ベンゼン精製装置(本州化学工業(株)・和歌山市)】

●農業法人 株式会社秋津野(田辺市)が経済産業省の「ソーシャルビジネス55選」に選定

・経済産業省は、ソーシャルビジネスを地域で実践するための処方箋の提供及び活動自体の認知度向上を目的に、今回55の日本を代表する取組を選定し、本県から農業法人 株式会社秋津野が選ばれました。

・ソーシャルビジネスとは、まちおこし、少子高齢化、環境問題といった社会的課題をビジネス手法で解決しようとする活動のことです。

・農業法人 株式会社 秋津野は、住民で構成する「秋津野塾」を中核に、廃校舎を活用した農業体験型宿泊施設「秋津野ガルテン」での農業体験プログラムの提供、地域産品

を活かした商品開発など、農業を基本とした地域づくりと経済活動に取り組んでおり、先進的事例として評価されました。

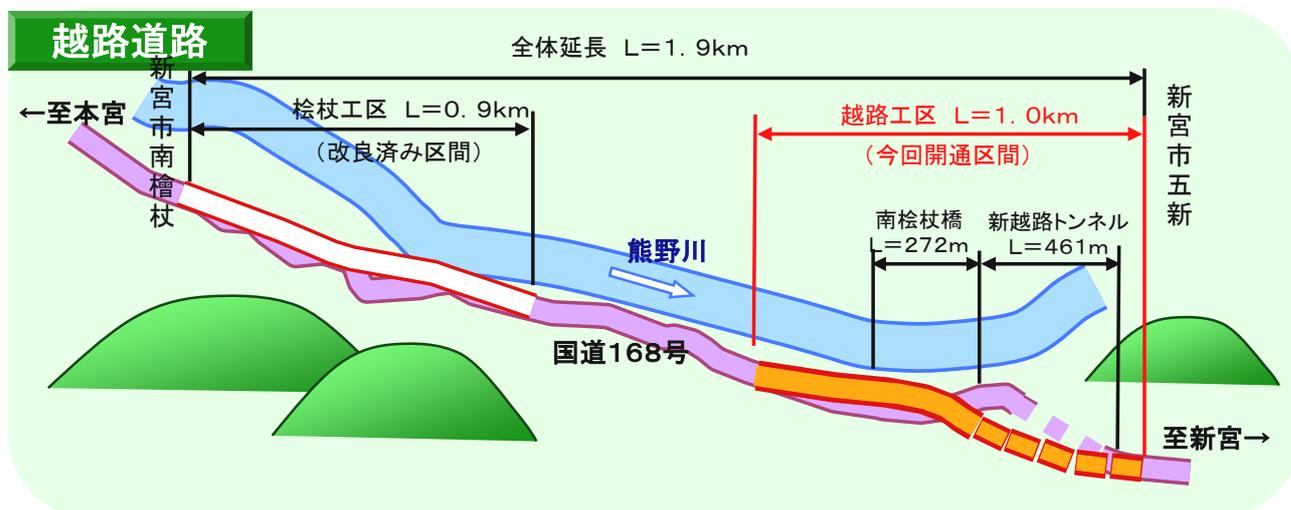
・贈呈式は、3月19日にTOC有明コンベンションホールにて行われる予定です。



【農業体験型宿泊施設「秋津野ガルテン」】

● 国道168号「越路道路」の供用開始

・ 2月28日、新越路（しんこしじ）道路が完成し開通式を行いました。今回の開通区間は、国道168号の新宮市街地に抜けるトンネルを含む1.0kmで、旧道は道幅が狭く、大型車両の対向が困難でした。今後、交通の利便性と安全性が向上し、地域の活性化が期待されます。



● 第8回和歌山県市町村対抗ジュニア駅伝競走大会開催

・ 2月15日（日）、小春日和の下、和歌山県市町村対抗ジュニア駅伝競走大会が開催されました。本大会は、スポーツの振興と青少年の健全育成を図るとともに、県及び各市町村の活性化に資するため、平成13年度に第1回を実施し、今では「ジュニア駅伝」の愛称で親しまれています。

・ 県庁前をスタート、マリーナシティをゴールとする10区間25.0kmのコースを、郷土を代表する小中学生がタスキを繋ぐもので、今回は30市町村の代表チームとオープン参加10チームの計40チーム、団長・監督・コーチを含めた計765名の選手団の参加により開催されました。

・ 運営は、主催の実行委員会の他に140名の和歌山陸上競技協会の役員・審判員をはじめ、高校生205名を含む2,002名のボランティアと沿道の商店やご家庭のご理解、ご協力を得て行われました。

・ 開始式で主催者である仁坂知事は「それぞれの市町村の誇りを胸に走って下さい。私は知事ですから全市町村を応援します。」と激励し、その後スターターをつとめました。

・ 沿道の温かな声援を背に、すべてのチームが全力でタスキを繋ぎ、ゴールしました。

・ 今回、過去のベストタイムを記録した団体は、30市町村中、10市町村。また昨年より記録を伸ばした団体は17で、2017年の国体に向けて、がんばろうという気運が出てきています。



(結果) 1位 和歌山市 2位 御坊市 3位 海南市

●新公共調達制度の一部を改定しました

・和歌山県では、昨年6月、談合を防止し効率性を追求するのみならず、公共工事の質を確保し、県内企業の育成も図れるようにバランスのとれた新公共調達制度を導入し、その運用を行ってきましたが、建設業界がとにかく仕事をとりとうと不当廉売に当たるのではないかと低入札が多発したため、それを少しでも防ぐようにとの観点から、事業者や業界団体等からの見直しの要望も踏まえ、総合評価方式等の内容の一部改定など見直しを行いました。

・もちろん、昨年6月から実施している制度の根幹と考え方は、変わっておらず、その中でいけばファインチューニングです。

●福祉の相談窓口を設置

～ 和歌山県は福祉のことで困っている人はひとりも見逃しません ～

・「福祉のことで困ったことがあっても相談先がわからない。」、「福祉の支援を受けたいけれど、どうすればいいのかわからない。」、県民の皆様のそんな声にお応えするために、市町村の協力も得て、県と市町村に「福祉の相談窓口」を設けました。

・「相談窓口」では、相談を受ける → 担当部署や関係機関に連絡する → 担当部署や関係機関にご案内する → 必要に応じて経過や結果を確認する という対応を行います。和歌山県では、「福祉の相談窓口」の設置により、福祉のことで困ったり、支援を受けたいけれども、どうしていいのかわからないという人を、ひとりも見逃しません。

・困ったら、まず、県庁福祉保健総務課社会福祉班や、県振興局、市町村の「福祉の相談窓口」に電話を頂き、相談先がわからない人を、担当部署や関係機関にご案内します。

●「田舎暮らし応援県わかやま推進講演会」&「JOIN地方交流会 in 和歌山」開催

・和歌山県では、民間と行政が連携した県内組織「田舎暮らし応援県わかやま推進会議」を設立し、移住・二地域居住等の受け入れ促進に取り組んでいます。

・同会議と県は、2月17日（火）に田辺市の紀南文化会館において、JOIN（移住・交流推進機構）と合同で、講演会とJOIN地方交流会を開催し、企業・民間団体、市町村等14



5名が参加しました。講演会ではJOINの島田会長（千葉商科大学学長）が「移住・交流ビジネスを地域づくりに生かす」と題して講演を行いました。交流会では仁坂知事が「和歌山県における移住・交流の取り組みについて」の講演を行い、その後、3つの分科会に分かれ、東京等からのJOIN参加企業15社も参加し、都市部企業と連携した移住・二地域居住等の受入れについて、活発な意見交換が行われました。

●JOIN（移住・交流推進機構）とは？

JOIN は、2007年10月に設立され、会員である企業と地方自治体が連携して全国的な移住・交流の推進に取り組んでいる組織で、知事はJOINの理事です。

● 第40回全国高校バレーボール選抜優勝大会出場校壮行式開催

・3月10日、全国高校バレーボール選抜優勝大会に出場する開智高校（男子代表 15年連続15回目）と和歌山信愛女子短期大学附属高校（女子代表 4年連続24回目）の健闘を祈念するために、県庁前広場において壮行式を開催しました。

・仁坂知事は、選手の皆さんを「全国大会では実力を出し切り（晴天のように高く）舞い上がってほしい」と激励。

・信愛の水本主将は「全国で名を残せるようにがんばります」と力を込め、開智の平田主将は「相手が誰かに関係なく勝って応援に応えます」大会に向けての意気込みを語りました。



・優勝大会は3月20日から26日までの7日間、東京・国立代々木第1競技場において開催されます。

・また、3月17日には、県庁前広場において、第81回選抜高校野球大会に近畿地区代表として、18年ぶりの出場を果たした箕島高校の健闘を祈念して壮行式を開催します。

● プロ野球「紀州レンジャーズ」設立記念・常勝決起パーティ開催

・3月28日に開幕するプロ野球関西独立リーグに和歌山から参戦する「紀州レンジャーズ」の藤田平監督、コーチ、全選手のお披露目を兼ねたパーティが2月20日、和歌山市内のホテルで開催され、約250名の関係者とサポーターが詰めかけました。

・紀州レンジャーズは、選手22人（コーチ兼任含む）、練習生5人です。

・パーティでは木村竹志球団代表が「優勝を目指し、和歌山を元気にしたい」と抱負をのべ、大江参議院議員、仁坂知事、大橋和歌山市長らがプロ野球、高校野球への思いを語り、地域活性化や青少年健全育成への期待を寄せました。

・会場では選手が1人ずつステージに上がって挨拶をし、新しいユニフォームも一般に先立って披露されました。藤田監督や選手たちは訪れたファンにサインや記念撮影に応じていました。

・3月28日（土）に県営紀三井寺球場で行われる「明石レッドソルジャーズ」との開幕戦では、仁坂知事による始球式も予定されており、地元の期待と声援を受け、「野球王国和歌山」の名をかけた紀州レンジャーズの挑戦が始まります。

●和歌山大学観光学部公開講座で仁坂知事が講義

・地域再生をテーマに様々な講師を招いて地域活性化の方策を考える講座「地域再生システム論」が、2月10日から14日の5日間、フォルテ・ワジマ4階（和歌山市）で和歌山大学観光学部主催により開講され、2月11日に仁坂知事が、和歌山大学観光学部の学生と社会人計約100名を前に講義を行いました。

～【経済学の観点から地域振興を語る】～

・仁坂知事は、「経済学で語る地域振興」と題して、自分は経済学的に考えるということをつも心がけているとして、物事を経済学的に考えるとはどういうことか説明した上で、地域振興に関するいくつかのテーマを例にとって講義しました。

・中心市街地問題については、厳しい開発規制が行われているイタリアなどの例と和歌山の現状を比較しながら、「中心市街地を守るためには、市街地が広がらないよう都市計画を厳しくすればよいが、今、現に地価の安い郊外で車を使って便利に生活している人もかなりいるので、そういう人達のことにも考える必要がある。中心市街地の再開発や、いくつかの拠点が公共交通機関で結ばれている団子型の都市形成など、有効な方法を住民と行政と一緒に考えていくことが大切だ。」と述べました。

・そのほか、高速道路建設におけるコスト・ベネフィット分析においては、現況交通量だけで算定するのではなく、実際に高速道路ができたときの将来交通量の大幅な変化を考慮すべきことや、企業立地では、受け入れる住民や行政の姿勢や、教育、医療など地域の総合的な企業風土が重要であることなどについて論じました。



●住友生命保険が子育て支援の団体「和歌山おはなしの会・語りの森」を表彰

・住友生命保険は、少子化対策に取り組んでいる民間団体を支援する「未来を築く子育てプロジェクト」の表彰式を東京で開催しました。

・今回、最も優れた少子化対策事業を行っているとして、「和歌山おはなしの会・語りの森」（和歌山市）と愛知県のNPO法人の2団体に「未来大賞」が贈られました。

・このプロジェクトは住友生命保険が100周年記念事業として、昨年創設したもので子育てをしやすい社会環境づくりを後押しするために、子育て支援を行っている団体や「子育て」をテーマとした優秀エッセーを表彰するほか、育児中の女性研究者に助成金を支給するものです。

●本県への企業立地件数が51件になりました！

・この度、和歌山市に本社がある尾高（おたか）ゴム工業（株）が、貴志川工場（紀の川市）にて工場の増設をすることになり、平成19年以来の企業立地件数が51件となりました。

・同社は、工業用ゴムロール等のゴム製品の製造販売を行っている会社です。

●「企業の森」事業に1団体が参画し、48箇所になりました！

- ・本県が進める「企業の森」事業に、新たに「株式会社えにし」が参画することになり、3月23日に県庁で調印式を行なう予定です。
- ・同社の川原代表取締役は、「湯の峰温泉 モスの森」の活動メンバーでもあり、モスの森での活動を通じ、「さらに企業の森の活動を充実させたい」という思いを深められ、今回、新たに「湯の峰温泉モス&ナナズいにしえの森」で参画していただくことになりました。
- ・同社の参画で「企業の森」は48箇所となります。県長期総合計画では100箇所に増やす目標を掲げています

●和歌山県立医科大学が若手研修医に人気

- ・都市部の病院に人気集中するなか、和歌山県立医科大学附属病院は自由度の高いプログラムで研修医の心をつかんでいます。
- ・県立医大附属病院は、地域に密着した病院でありながら、先進医療も学べる内容で研修先としての人気は全国トップクラスです。
- ・平成15年度に41人だったマッチ者数は5年連続で増加し、H20年度には58人に。医師臨床研修マッチング協議会が発表した平成20年度研修医マッチング結果では、マッチ者数は全国の111大学病院中19位（平成19年度 109大学病院中23位）でした。
- ・若手研修医の人気を得ている研修プログラムは、1年目から将来の専門分野を重点的に経験できるようにし、希望に応じた柔軟なプログラム作りを特徴としており、また、一般病院での研修も取り込むなど、地域医療の実情や必要性も肌で感じ取ることが出来るものとなっています。

●御坊市出身木村山関（春日野部屋）が知事を訪問

- ・大相撲春場所（3月15日初日）に再入幕を果たした御坊市出身の木村山関が10日、仁坂知事を訪問し、本場所に賭ける意気込みを語りました。
- ・木村山関は、箕島高、東洋大を経て春日野部屋に入門。2004年春場所で初土俵を踏みました。
- ・本県海南市出身の春日野親方は、「コンスタントに勝てる力は十分ある。自信を持って土俵に上がればいい結果が出ると思う。」と話しました。



春日野親方（左から2番目）木村山関（右端）

●企業立地促進法に基づく「和歌山県紀ノ川流域地域基本計画」を変更しました。

- ・「紀ノ川流域地域基本計画」（平成20年2月1日国同意）が、集積業種及び集積区域の見直しを行い、2月24日、国から変更の同意を受けました。
- ・今回の変更により、地域の強みである農林水産物を活用した産業の集積を図るとともに、情報家電関連産業及び新エネルギー関連産業により内発型と外部資本とのバランスの取れた活性化を目指します。

(主な変更内容)

1 集積産業

- 当初指定の2産業に加え、地域資源産業活用型産業を追加指定
 (当初指定) 情報家電関連産業、新エネルギー関連産業
 (追加指定) 地域資源活用型産業

2 集積区域

- 当初計画の4市1町に加え、1市3町を追加指定
 (当初指定) 和歌山市、橋本市、紀の川市、岩出市、かつらぎ町
 (追加指定) 海南市、紀美野町、九度山町、高野町

3 成果目標

	(当初)		(変更後)
企業立地件数	44件	→	107件
製品出荷額増加額	900億円	→	1,086億円
新規雇用創出	1,400人	→	2,539人

ホームページアドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/062200/ritchica/sokushinhou/index.html>

※和歌山県ホームページ（和歌山県情報館）
 (集積区域)



～ 根来寺を中心とした歴史と文化財・人口急増のまち 岩出市 ～
 (岩出市は、平成18年4月に市制が施行され誕生しました。)

根来寺

・岩出市にある、古くから有名な根来の地。昔、山岳信仰に基づく修験道の祖、役行者(えんのぎょうじゃ)が葛城28カ所の行場の1つとして開き、その後、豊福長者(とよふくちょうじゃ)の寄進で草庵が建立されました。その草庵を立て直し「豊福寺(ぶぶくじ)」としたのが覚鑿(かくばん)上人という僧。その寺が、覚鑿上人を開祖とする新義真言宗の総本山根来寺として大きく栄えていきます。覚鑿上人は、現在の佐賀県生まれ。13才で京都の仁和寺に学び、出家。20才で高野山に入山しました。平安時代、鳥羽上皇が強く支援し、石手荘(岩出市)などを与えられ、覚鑿上人は700人の弟子を連れて、高野山を出て、根来に移り住みました。

・上人は真言密教の厳しい修行に民間信仰の良い点を取り入れようと考え、高野山で1つの事件が起こっていました。対立する僧が上人を襲った「錐(きりもみ)の乱」です。

僧たちが踏み込んだ時、不動堂に二体の不動尊がありました。一方は、仏、一方は覚鑿上人。僧たちは錐で突いて確かめようとしますが、仏は覚鑿上人を守ろうとし、同じように血を流されたので、僧たちは恐れおののいて立ち去ったという事件です。

僧兵

・種子島に鉄砲が伝来した時、そこに舟で立ち寄った紀伊国の津田監物(けんもつ)は一丁の鉄砲を買い取り、根来寺杉の坊の住職である弟に届けました。鉄砲の研究をし、10年後には約100丁の鉄砲を作り出したことで、根来は「鉄砲の産地」となります。鉄砲で武装した根来寺の僧は「僧兵」「根来衆」と呼ばれ、戦うことを職として各地に出向いたと言われています。



岩出市の現状

・人口は5万2千人を超える。大阪へのアクセス道路も改良され、関西空港まで約40分という立地状況、宅地も増え、国道沿いに店舗が立ち並ぶ人口急増の元気なまちです

岩出市ホームページ <http://www.city.iwade.wakayama.jp/>

～編集後記～

桜の開花予測が聞かれる時期を迎えました。(和歌山での開花予測は例年より早めです)春は百花繚乱ですが、「桜」前線の北上がニュースに取り上げられ、そしてお花見で全国各地が賑わうなど、1つの花「桜」にこれほど関心が集まる国は、他に見ることが出来ません。

新大阪から九州、鹿児島を結ぶ「九州新幹線」(2011年春開通)の名称も「さくら」に決まったようです。まさに「桜」は、日本のしきたりと伝統の中に根付き、日本人の感性を豊かにするなど、日本の文化そのものなのでしょう。

これから、その桜に彩られながら新たな門出を祝う、入学式、新学期、就職などあわただしい時期を迎えますが、県庁においても、平成20年度は3月末で終了し、平成21年度が始まります。そして4月1日から新たな体制で予算も新年度となります。県庁スマイル(SスマイルM役割I創意工夫L郷土愛E効率)と職員それぞれの個性とチームプレーでオーケストラが新しい音楽を奏でていくように、県庁も一丸となって頑張っていきたいと思えます。

さて、1月号でお知らせした「美味しんぼ」が週刊「ビッグコミックスピリッツ」で連載が始まりました。和歌山県の食文化や郷土料理が大きく取り上げられています。読者の方々が和歌山に興味を持ち、そして和歌山を訪れる。また口コミでPRしてくれる。県をアピールするには絶好の機会だと思っています。

和歌山の山が笑う季節を迎え、これからが観光には絶好のシーズンです。今回、「紀州浪漫」を併せてご送付させていただきますので、皆さんもお知り合いの方々に「和歌山の良さ」を伝えて頂ければ幸いです。

「和歌山だより」をお届けさせて頂いて、早や1年。新年度も引き続きよろしく願いいたします。

知事室秘書課長 鈴木敏彦

★「和歌山だより」Web版を和歌山県ホームページにアップしています。Web版ならではの美しい画面を楽しんで頂けますので是非ご覧下さい。

和歌山だよりに対するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報をご提供下さい。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。

(下記のFAX(様式自由)、E-Mail等をお願いします。)

■FAX 073-422-4032

■E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県のホームページ

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/>

ふるさと和歌山応援サイト <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>

*個人情報につきましては、「和歌山だより」の発行以外の目的には、使用いたしません。



2009年(平成21年)3月 NO.12

和歌山県 秘書課

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1

TEL 073-441-2022